

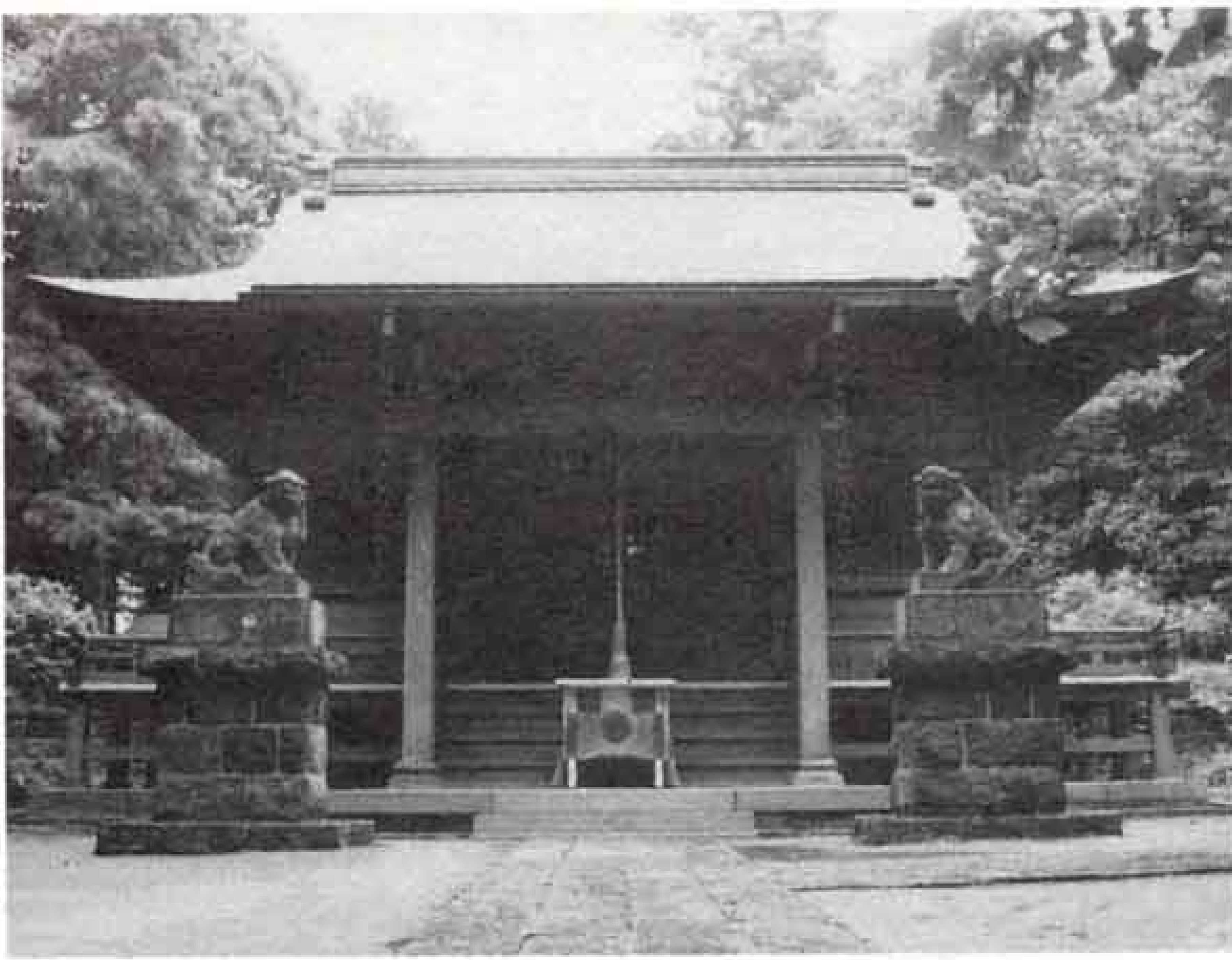
富士の民話 あれこれ

今宮の「火祭り」は、昭和四十年ごろまで毎年行われていた伝統ある行事です。その後、行われなくなっていました。だが、地元の人々の情熱によって復活され、ことしも八月十三日に行われます。

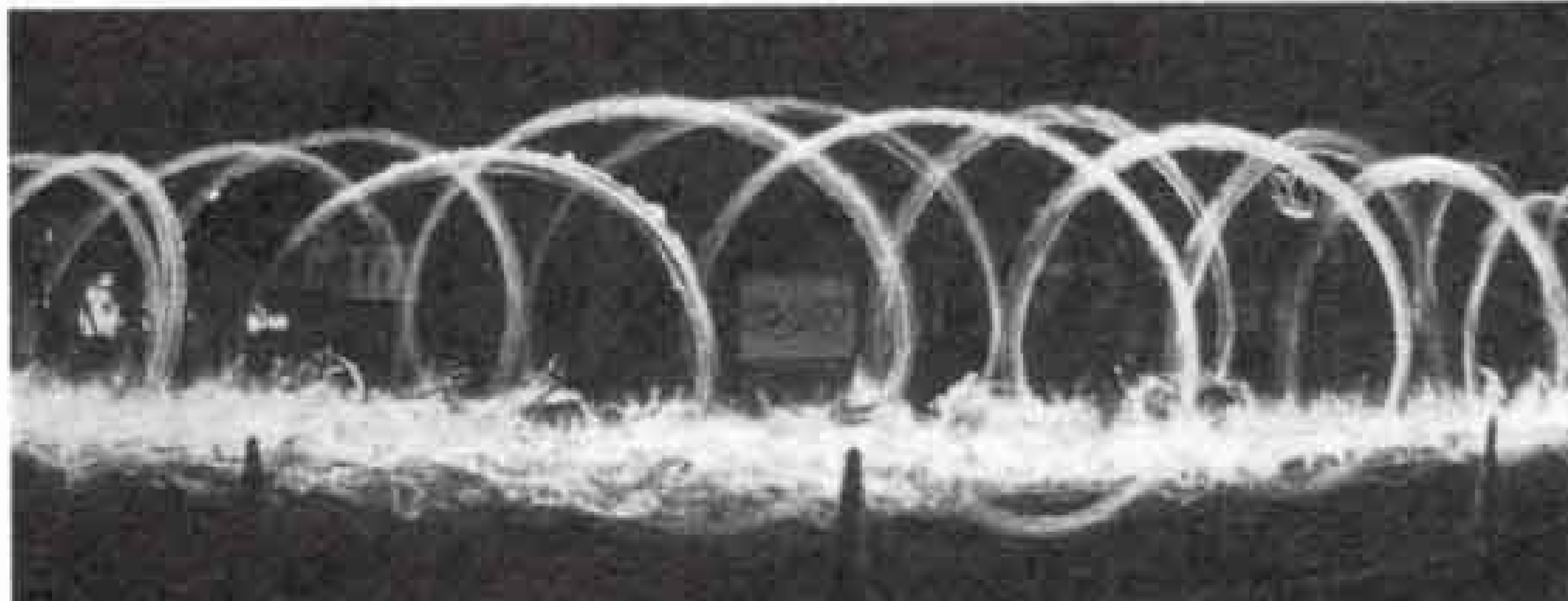
今回は今宮の「火祭り」の由来についてご紹介します。

今宮の

火祭り



◀「火祭り」が行われる今宮浅間神社



▶たいまつを回して歩く様子

昔、昔のことです。今宮では毎年のように火事が起きていました。それに加えて相次ぐ干ばつで不作が続く、村人の生活は大変苦しい状態に追い込まれていました。そこで村人たちは、「この災いを払いのけるように何か祭りをしよう」と相談をしました。

ところがそれから三日後、またも火事が発生しました。その日は風が強く火は瞬く間に広がり、大火事となってしまいました。

村人たちは、すぐに祭りを行おうと話し合い、火を清めるための「火祭り」を行うことに決めました。季節は八月の初めを過ぎていたので、お盆に合わせて祭りをすることにしました。そして、名主が三晩連続の「火祭り」をするように、村じゅうにおふれを出しました。

いよいよお盆です。村の中心に火床をつくり、そこから火をもらったたいまつにひもをつけてぐるぐる振り回しながら、村の一軒一軒を回っておはらいをしました。三日目の晩には、村中じゅうの人が神社の鳥居の前に集まり、大きなかがり火をたき、名主や組頭が火のついたたいまつを村人の頭の上でぐるぐる回して祭りを終わりました。

するとその年から、前年まで続いた干ばつもなく豊作になり、不幸な火事もなくなつて村は平和になったということです。その後、この「火祭り」は何百年も続いたそうです。



今宮火祭り保存会実行委員長
高瀬 清さん (今宮)

最近では地区の行事でみんなが一つになると減りましたが、私が子供のころはこのお祭りがとても楽しみで、大人も子供も盛り上がっていました。そのころの思いを胸に、何とか自分たちの手でお祭りをやろうと、同じ思いを持つ人たちと平成五年に復活させました。それからこととして六年目になり、お祭りの日には人もたくさん集まっています。

毎年お祭りが終わると課題が残りますが、それがまた来年へのステップになっていますね。そして将来はもっと張りのあるよりよいお祭りを目指し、この伝統ある「火祭り」を若い世代に伝えていきたいと思っています。

こちら編集室

健康な人ならだれでも気軽に参加できる身近なボランティア「献血」。といっても身近に輸血を必要とする人がいたことがきっかけで献血をする人が多いのではないのでしょうか。私が献血を始めるようになったのは、10年前に福祉関係の職場にいたとき。最近では年齢的なことや、自分

の血液には人よりアルコール分が多いのでは…、と年1回程度に減ってしまいました。今回の特集「献血」を編集した職員は残念ながら、献血ができないのか。さぞかしもどかしい思いで編集をしていたのでは。担当者の苦労はこんなところにもありそう…。

人口 236,543人 (前月比+147)
男 117,886人 (+67)
女 118,657人 (+80)
世帯 77,289世帯 (+148) 6月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

